

伊勢市教育委員会

「子どもたちとつくる『やさしいまち伊勢市』支援事業」

平成30年度

「やさしいまち伊勢市発見大賞」 入賞作品集



伊勢市



「やさしいまち伊勢市」を創ろう

子どもたちが持っているやさしさを、この伊勢のまちに活かすことはできないだろうか？ そんな思いから「子どもたちとつくる『やさしいまち伊勢市』支援事業」が始まりました。伊勢市の街に住む市民一人ひとりにとって「やさしいまち」づくりをめざすという趣旨で、この事業が展開されています。

「やさしいまち伊勢市発見大賞」の募集は、今年度で九回目になります。普段の生活の中で周りの人から受けるやさしさや学校での様々な経験を通して育まれる思いやりは、子どもたちの感受性を育みます。その感性で、自ら人にやさしくするには？思いやりのあるまちとは？と考える機会を作ることが、発見大賞の大きな目的の一つです。

今回の応募作品全体を通して、学校で取り組まれている様々な活動や地域の方々の協力によって、子どもたちの感性、やさしさ、人を思いやる心が育まれていると感じました。日々の生活の中や、学校でのいろいろな活動の中で人と出会い、触れ合い、子どもたちが感じて学ぶことのなんと豊かなことでしょうか。

体験・発見作文の部、俳句・短歌・川柳の部ともに、家族や地域の

人々とのかわりから感じた優しさや人のあたたかさ、寄り添いともに過ごす中で気づいたことなどが、素直に表現されていました。

ユニバーサルデザインの部には、いろいろなアイデアが集まりました。街の不便なところや困ったことを見つけるだけではなく、ユニバーサルデザインの観点で当事者の思いを大切にしていこうとしていた改善できる点はないかと考えたりする、子どもたちの前向きな姿勢に感心しました。

今年度は二二八六点の応募作品があり、応募された全作品がやさしさに満ち溢れていました。すべてを紹介できないのが残念です。市長賞の作文には、「一人一人が いずれ自分も年をとっていくことを忘れず、助け合える地域をつくり、不安のない社会になっていければいいなと思いました。私もいろんな取りくみに参加していきたい」とありました。これからも「やさしいまち伊勢市」を創るために子どもたちの力を大いに活かしていきたいと思っています。

平成三十一年 三月 伊勢市教育委員会教育長

北村 陽

作文の部

市長賞

施設へ通う高齢者

小侯中学校 一年 鈴木 美怜

私は以前、祖母の働いていたディサービスという施設へ二日間ボランティアで体験に行きました。

一日に来る おじややおばやとは十人程といつ小さい施設でしたが、一日目、二日目と違う方達が来ていました。

車いすに乗っているおばあさん、しっかりと歩いているけれど認知症で会話がうまくできないうおじやさん、しっかりと歩いているけれど、脳梗塞の後遺症で体が不自由で介助のいるおばあさん。色々な人が、この施設を利用していました。

身体的な利用だけでなく、一人で生活をしていて、家族も近くにいないためディサービスを利用していらっしゃる高齢の方もみえました。

朝は、施設の車へ、利用される方の家まで迎えに行き、帰りはまた自宅まで送ってくださいます。中には、高齢者専用賃貸住宅という所で生活している人もいて、そここ帰っていく人もいました。

一日の過ごし方は、朝ディサービスに来ると、看護師さんが体温や血圧を測り、その日の体調をチェックし、介護士さんはお茶を出し、利用者さんに水分補給をしてもらいます。

その後は、みんなでゲームをしたり、ぬり絵や字を書いたり、体操をしたりします。

できない人には、その人に合ったトレーニングをちゃんと考えてしていました。食事や入浴もあり、介助をする人は、自分の行動一つ一つに対して声をかけます。私は、利用者さんに声をかけるだけで、不安を取り除くためだそうです。

お昼から、自宅へ帰るまでの間は、施設内を散歩する人もいれば、お昼寝をする人、他の人とお話をする人など自由に過ごされています。私も一緒におじややおばあさんたちとお話をしましたが、あるおばあさんが、

「私は一人やから、一やって外に出るじやが嬉しくて、運動になるからあしがたい。」

と、話していただきました。でも、その反対で

「早く帰りたい。」

と言っている人もいました。利用される人は、それぞれ色々な事情が

しました。

ごせのじやが、なつかしいたしごころ かわきおんぎを また
らうねえまじりましたじや。

地域の先生から、伝統の歌を教えてもらったと語りだす。最初は緊張
しながらも、歌い出しの楽句に耳をすまると、たまたまがよみ伝わる作
文です。歌の練習をやる中、歌詞に「あはれ」が地域の歌に「あはれ
本番では、あはれの歌に「あはれ」の地域の人が、あはれに踊る姿を見
て、地域のあはれに「あはれ」だとする。そして、最後「あはれ」来
年も歌いたし」と書かれています。しかも、地域のこころなごん
のしなごころを大切にしながら、地域の歌をよみだし、あはれい
う思っています。



福祉賞

はじめわかった 不便なじや

豊浜西小学校 三年 奥山 峻也

あはれ、大すぎなおじいちゃんがいいます。四月になん病いなる、
自分の足で立ち歩くじやができなくなりました。リハビリを一生けん
命がんばって、車いすに乗れるようになり、歩行ぎで歩けるようにな
りました。でも、今までは歩いて歩いていた所でも、少のたえで
前へ進めじやができませんでした。ちょっと手助けするじや、進めじやが
できます。少のじやが一人では歩けじやができませんでした。じよも悲しい
じやと思いました。家の中も、たくさん不便なじやがあつて、な
おじいちゃん。今までは歩いて住んでいた家でも、なのおじいちゃん
が病いならはじめてわ
かりました。

一番びっくりしたのは、歩道と車道のだんざが、車いすでなかなか
上手に上がれないと聞いています。歩く人のための歩道なのに、そこ
へ行けないなんておかしいと思いました。町の中にも不便なじやがた
くあります。

大好きなおじいちゃんを過す中で、今までは見えていなかった生活の中の不便さを感じていった奥山さん。車椅子や、歩行器で移動しては不便、家の中も、町の中も過すのが、不便なところがあふふふと気づいてきました。奥山さんが、おじいさんに優しく寄り添い生活している様子が良く分かる作文です。家族を思い、「不便で困るな」と気づけたことが「住みやすい町づくり」への第一歩ですね。



入賞

しょうがいや すごい者 佐八小学校 六年 東 大翔

命の尊厳 城田中学校 三年 見浦 瑞季

障がい者について 小俣中学校 二年 佐々木 日菜

意外な一面 小俣中学校 一年 福島 誠也



で、家族と間違えたのだと気づきました。そしてその人を少しの間支えてい
ました。「この経験から、いなかにもあったくせいな人を助けたいと思いま
す。」と話すのは、森本さんが、何かをわかってきたと喜んでいました。相手の方も
安心して歩けました。また、この経験が、その人の心を支えたいと思えたことと素敵です。

優秀賞

おどろおどろ あそびあそび おもしろ



明野小学校 一年 中山 えみ

【作品の紹介】

手紙で 「楽しかった」を表現できたのがいい。

優しさを 伝える手紙は 迷いな

豊浜西小学校 六年 平野 愛

【作品の紹介】

お年よりや、体の不自由な人が困っていたら助けられる人
をさがすよ。

入賞

みみおと ほのかかわりて きんがら

早修小学校 一年 平山 琉偉

知ってる。ヘルプマークの もつ意味を

有續小学校 四年 山崎 陽菜

乗り物で 自分の席を バトンタッチ

明野小学校 六年 土田 野々花

おどろおどろ 手のひらを 語って

北浜中学校 一年 新谷 聖花

心が動いた場面を切り取った言葉たち。子どもならではの真っ直ぐな
表現が素晴らしいです。『おもしろい』、『おもしろい』、『おもしろい』、
『おもしろい』。自分かきまわすよ。おもしろいよ。おもしろいよ。おもしろいよ。
おもしろいよ。



ユニバーサルデザインの部

市長賞

四郷小学校 3年 野口 大輝

《テーマ》 「明るい歩道に なったらいいな」

●気づいたこと

夜、お母さんと近くの駅まで歩いて行きました。その時、道が暗くて歩くのがこわかったです。人があまり通らない道だから 明かりがないのかもしれないけど、暗くてあぶないし、みんな歩くのがこわいだろうなと思いました。

●こうなったらいいと考えたこと

人が通らない時に、道を明るくしておくのはもったいないと思いました。妹のくつは、歩くとピカピカ光ります。それを見て思いました。人が歩いたら、その重さに反応して、道が光ったらいいなと思いました。手すりも、人がさわったら光るようにしたら便利だなと思いました。



教育長賞

大湊小学校 4年 世古 萌

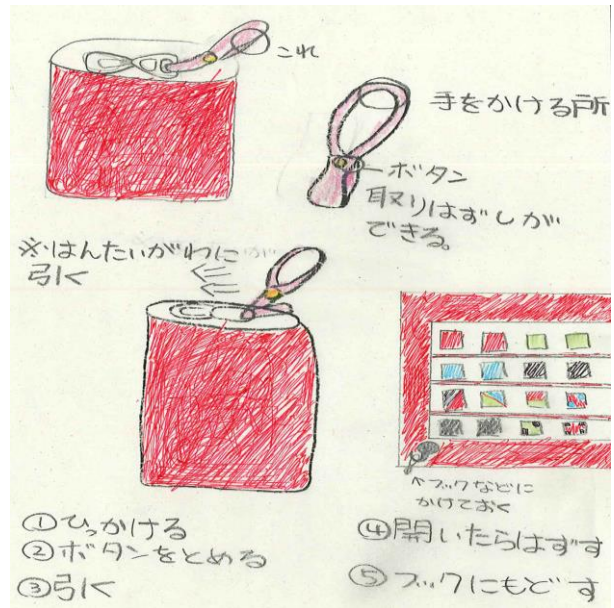
《テーマ》 「だれもが あけられるように」

●気づいたこと

自動販売機で売っている、缶の飲み物が開けづらくて手が痛くなるから、力の弱い人にはやさしくないなと思った。

●こうなったらいいと考えたこと

缶の飲み物が、だれでも開けられたらうれしいだろうなと思った。



福祉賞

小俣中学校 2年 出口 栞

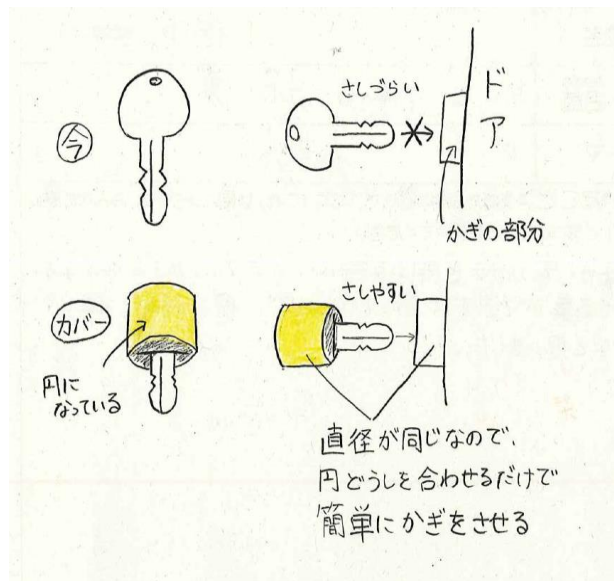
《テーマ》 「かぎ穴」

●気づいたこと

祖母が家の鍵を閉める時に、鍵穴と鍵をなかなか合わせる事ができずに困っていたので、使いづらくて優しくないなと思いました。

●こうなったらいいと考えたこと

誰でも鍵を1回で鍵穴にさせるように、鍵の頭の部分にカバーを付け、そのカバーと鍵穴の周りの円の部分を合わせることで、簡単にさせられるような物があれば優しいだろうなと思いました。



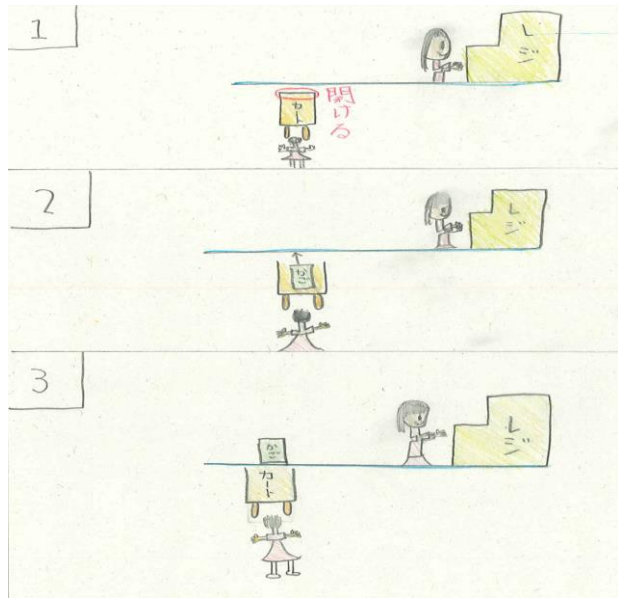
優秀賞

大湊小学校4年 久住 亜み

《テーマ》 「カートを開ける」

●気づいたこと
スーパーでレジカウンターにカゴを置くときに、お年寄りの人は大変。

●こうなったらいいと考えたこと
カートの前の部分を開けてスライドさせることができれば、レジカウンターにカゴがいく。

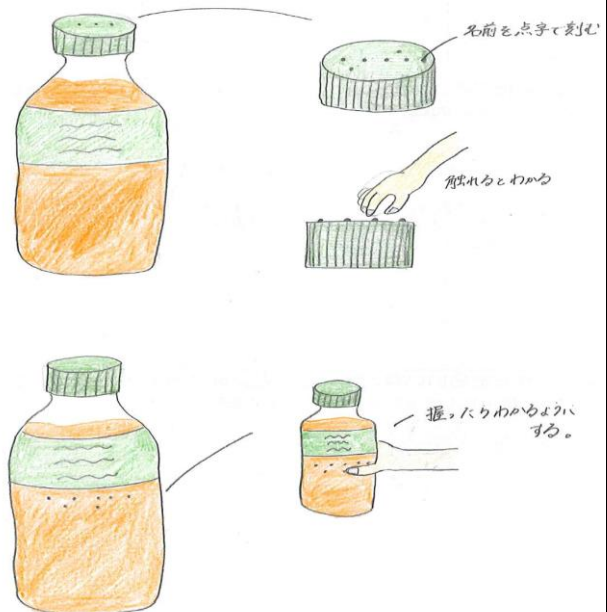


小俣中学校2年 小山 璃湖

《テーマ》 「点字付きペットボトル」

●気づいたこと
視覚障がいのある方のために、紙パックの牛乳にくぼみがあるというのは有名な話ですが、「ペットボトルの飲料に似た仕組みがないのはなぜだろう」と思いました。
紙パックと同様に、冷蔵庫に何本もペットボトルが入っていたら、障がいのある人は、どれがどれか分からなくなってしまいます。

●こうなったらいいと考えたこと
視覚障がいのある人が、ペットボトルにさわれば、何の飲み物が判別できるようペットボトルの一部に、飲み物の名前を点字で刻む。



入賞

「耳が聞こえにくい人が 分かりやすいように」

大湊小学校4年 湯前 龍真

*耳が聞こえにくい人と会話するとき、手話のできない人でも口の動きを読み取り、手話にしてくれるアプリがあればいいなと考えたそうです。

「横断歩道の事」

進修小学校6年 中村 泰成

*横断歩道を車椅子の人が渡るとき、人や自転車とぶつかってあぶないと思い、自転車のよりに車椅子専用の横断スペースをつくれなかと考えたそうです。

「ワンタッチで飲み物を・・・」

北浜中学校1年 加納 珀弥

*ペットボトルのふたが開けにくい人のために、ワンタッチで開けられるペットボトルのふたにすればよいと考えたそうです。

「みんなが安心・安全な横断歩道」

北浜中学校1年 浅沼 夢来

*だれもが安心・安全に歩道を渡ることができるように、お年寄りや怪我をして松葉杖をついている人等が安心して渡る事ができるスペースがあればいいなと考えたそうです。

授業で学んだことをもとに、自分の身の回りを「やさしいまち」の視点で見つめた作品や自分が普段から「こうだったらいいな。」とか「こうすると便利なのでは?」と考えたことをアイデアに生かした作品などがありました。

*市長賞の野口さんのアイデア

お母さんと、夜駅まで歩いたときに気づいたことをもとに、誰もが安全に安心して歩くことができる工夫を考えました。人が通るときだけ光るという環境にも配慮された工夫が素晴らしいです。

*教育長賞の世古さんのアイデア

缶のふたが開けにくいという自分の経験から、子どもからお年寄りまでだれもが簡単に、小さな力で缶を開けられる道具を考えました。気軽に使えるように自動販売機につるしておくというアイデアも素敵ですね。

*福祉賞の出口さんのアイデア

おばあちゃんが、家の鍵を開けるときに困っている様子から、鍵穴に鍵を差し込みやすい工夫を考えました。おばあちゃんを思いやり気づいたところが素敵ですね。

学校賞

明野小学校

有緝小学校

全学年、または複数の学年で3部門それぞれに取り組み、優秀な成績をおさめられました。



平成30年度
「やさしいまち伊勢市発見大賞」入賞作品集

編集 伊勢市教育委員会事務局学校教育課
発行 平成31年3月